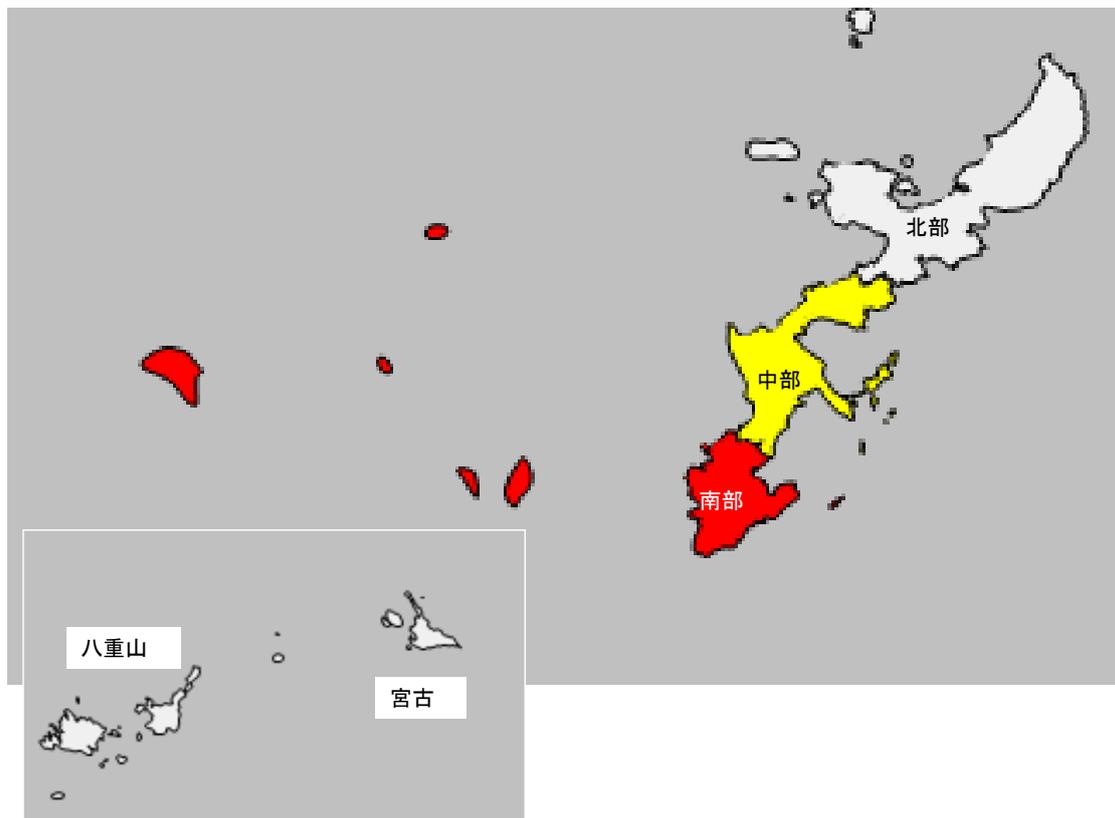


47. 沖 繩 県



4 7 沖縄県

A. 医療提供体制の現状

沖縄県は、日本で一番出生率が高く、他の都道府県と大きく人口動態が異なる。沖縄県の特徴は、(1) 提供している医療内容と比べ一般病床数が不足気味、(2) 南部の充実した医療提供体制、中部の医師・一般病床不足、宮古の健闘である。

(1) 提供している医療内容と比べ一般病床数不足気味

全県を通しての偏差値が、病床数(53)、一般病床が(50)、病院勤務医(56)、全身麻酔数(54)、看護師数(56)と、病床数と比べ病院勤務医や全身麻酔件数が多い。中部(宜野湾)の偏差値が、一般病床(43)、病院勤務医(46)、全身麻酔(50)、看護師数(52)、南部(那覇)が、一般病床(51)、病院勤務医数(64)、全身麻酔(59)、看護師数(59)と、多い全身麻酔数と比べ一般病床数が不足気味と思われる。

(2) 南部の充実した医療提供体制、中部の医師・一般病床数不足、宮古の健闘

医学部のある南部に51%の人口が集中するが、病院勤務医66%、全身麻酔63%、看護師56%が集中し、南部の病院勤務医の偏差値(64)であるので、南部の医療提供体制は充実している。一方中部は、全身麻酔数から考えると、病院勤務医数も一般病床も不足気味である。

離島の宮古の偏差値が、一般病床数(68)、病院勤務医(47)、全身麻酔数(48)、看護師数(50)であり、日本の離島の医療圏の中で、鹿児島県の奄美と並ぶ充実した医療が提供されている。

B. 人口動向と将来に向けた地域の医療福祉の整備の方向性

(北部)

北部医療圏は、南部の名護、国頭半島に病院が集中し、中部や北部(やんばる)地区には病院がない。この地域の偏差値は、病床数(64)、一般病床が(64)、病院勤務医(50)、全身麻酔数(47)、看護師数(58)と、病床、看護師が多く、全身麻酔が少なく、急性期医療の多くを、中部や南部に依存している。2010→35年の医療の総需要が28%増、0-64歳が7%減、75歳以上が67%増と医療需要の確実な伸びが期待できるので、医師の増強策による医療機能の向上や高齢者用の施設や住宅の整備し、南部・中部からの支援強化やとドクターヘリを含む連携の強化を図り、地域の機能を維持・向上することを目指すべきであろう。

(中部)

中部医療圏の偏差値は、病床数（50）、一般病床が（43）、病院勤務医（46）、全身麻酔数（50）、看護師数（52）と、一般病床と医師が少ないなか、全身麻酔が全国平均で行われ、基幹病院の病床稼働率が極めて高い日本でも有数の病床不足地域である。2010→35年の医療の総需要が33%増、0-64歳がわずか5%減、75歳以上が97%増と医療需要の大きな伸びが期待できるので、一般病床の増床、医師の増強策による医療機能の向上や高齢者用の施設や住宅の整備などが必要である。

(南部)

南部医療圏には琉球大学をはじめ基幹病院が多数集まり、沖縄本島はもとより、離島からも多くの患者が集まってくる。偏差値は、病床数（54）、一般病床が（51）、病院勤務医（64）、全身麻酔数（59）、看護師数（59）と、充実した医療が提供されている。2010→35年の医療の総需要が28%増、0-64歳が14%減と全国平均の半分以下、75歳以上が101%増と医療需要の大きな伸びが期待できるので、一般病床の増床、高齢者用の施設や住宅の整備などが必要である。また、南部で働く医師が医師不足地域での勤務を促す誘導策が実施されることが、望ましい。

(宮古)

この地域の偏差値は、病床数（59）、一般病床が（68）、病院勤務医（47）、全身麻酔数（48）、看護師数（50）と、離島としては、充実した医療が提供されている。2010→35年の医療の総需要が13%増、0-64歳が29%減、75歳以上が50%増と医療需要の確実な伸びが期待できるので、医師の増強策による医療機能の向上や高齢者用の施設や住宅の整備し、南部・中部からの支援強化やとドクターヘリを含む連携の強化を図り、地域の機能を維持・向上することを目指すべきであろう。

(八重山)

この地域の偏差値は、病床数（45）、一般病床が（49）、病院勤務医（46）、全身麻酔数（41）、看護師数（43）と、病院勤務医や全身麻酔数や看護師数が少ない。2010→35年の医療の総需要が31%増、0-64歳が15%減、75歳以上が89%増と医療需要の大きな伸びが期待できるので、医師の増強策による医療機能の向上や高齢者用の施設や住宅の整備し、南部・中部からの支援強化やとドクターヘリを含む連携の強化を図り、地域の機能を維持・向上することを目指すべきであろう。

表 47-1 地理情報・人口動態

二次医療圏	人口	県内シェア	面積	県内シェア	人口密度	地域タイプ	高齢化率	2010→35年総人口増減率	2010→35年75歳以上人口増減率
全国	128,057,352		372,903		343.4		23%	-14%	59%
沖縄県	1,392,818	30位	2,276	44位	612.0		17%	2%	93%
北部	101,272	7%	705	31%	143.7	過疎型	21%	5%	67%
中部	478,619	34%	366	16%	1,308.6	大都市型	17%	7%	97%
南部	707,219	51%	387	17%	1,826.4	大都市型	17%	0%	101%
宮古	53,270	4%	226	10%	235.2	地方都市型	23%	-13%	50%
八重山	52,438	4%	592	26%	88.6	過疎型	17%	0%	89%

図 47-1 総人口と75歳以上人口の増減率（2010年→35年）

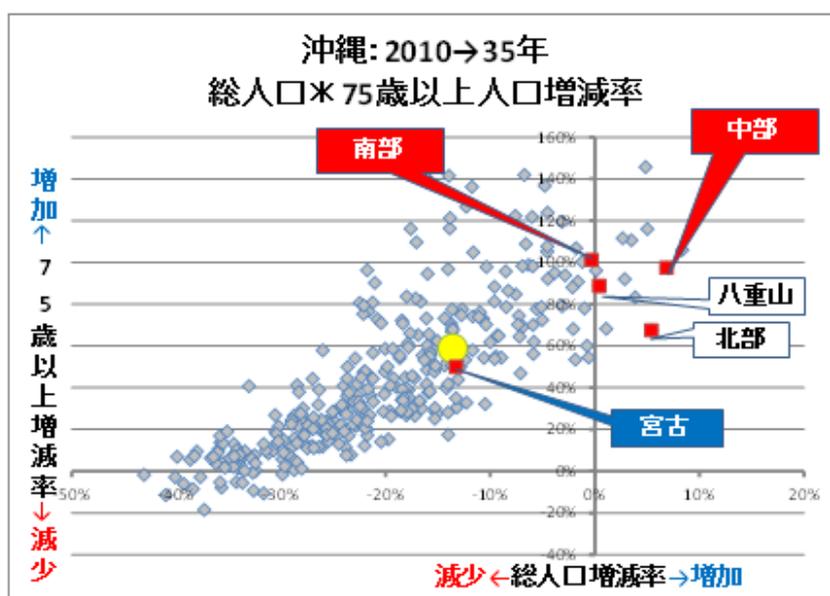


表 47-2 総病床数、一般病床数、総高齢者ベッド数

二次医療圏	総病床数				一般病床数(再掲)				総高齢者ベッド数			
	総病床数	県内シェア	人口10万当り	偏差値	一般病床数(再掲)	県内シェア	人口10万当り	偏差値	総高齢者ベッド数	県内シェア	75歳1000人当り	偏差値
全国	1,672,549		1,306	504	915,096		715	244	1,344,835		96	20.5
沖縄県	20,490	1.2%	1,471	53	9,793	1.1%	703	50	12,410	0.9%	103	54
北部	2,037	10%	2,011	64	1,064	11%	1,051	64	1,202	10%	100	52
中部	6,337	31%	1,324	50	2,605	27%	544	43	3,922	32%	101	53
南部	10,616	52%	1,501	54	5,141	52%	727	51	6,186	50%	108	56
宮古	947	5%	1,778	59	621	6%	1,166	68	653	5%	90	47
八重山	553	3%	1,055	45	362	4%	690	49	447	4%	90	47

※偏差値の「全国」については標準偏差を示している。以下同様。

高橋泰、(株)ウェルネス、「二次医療圏データベース 集計集」2012

(A. 「医療提供体制の現状」、表47-1、表47-2、表47-5、図47-4)

図 47-2 病床数（人口10万当たり）、総高齢者ベッド数（75歳以上1,000人当たり）

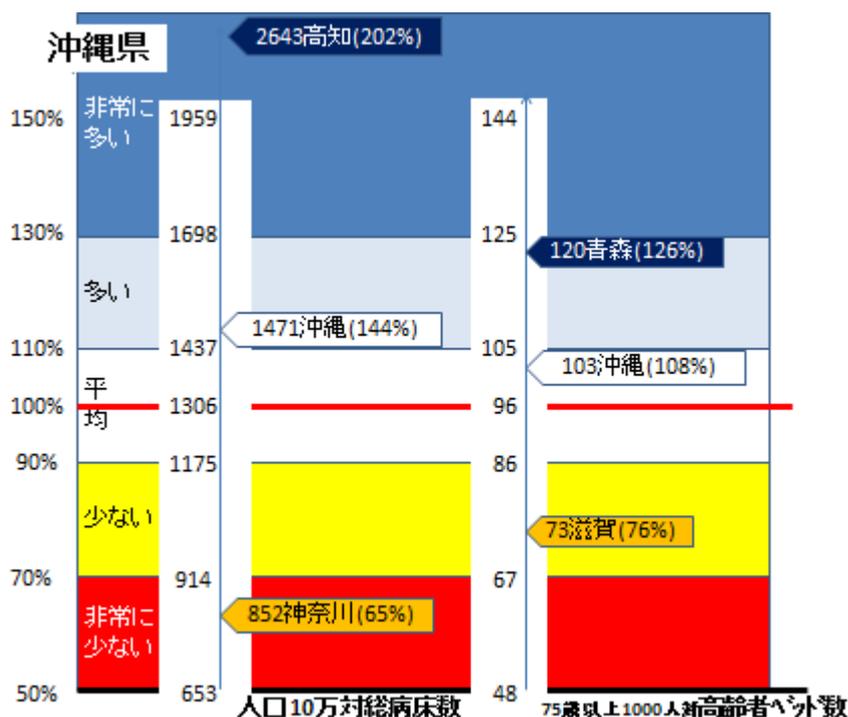


表 47-3 療養病床数、回復期病床数、精神病床数

二次医療圏	療養病床数				回復期病床数				精神病床数			
	療養病床数	県内シェア	人口10万当り	偏差値	回復期病床数	県内シェア	人口10万当り	偏差値	精神病床数	県内シェア	人口10万当り	偏差値
全国	333,717		261	208	61,697		48.2	44	349,345		273	211
沖縄県	4,005	1.2%	288	51	1,152	1.9%	83	58	5,441	1.6%	391	56
北部	496	12%	490	61	112	10%	111	64	363	7%	358	54
中部	1,368	34%	286	51	470	41%	98	61	1,840	34%	384	55
南部	1,837	46%	260	50	526	46%	74	56	3,088	57%	437	58
宮古	216	5%	405	57		0%	0	39	100	2%	188	46
八重山	88	2%	168	46	44	4%	84	58	50	1%	95	42

表 47-4 救命救急センター数、がん診療拠点病院数、療法士数

二次医療圏	救命救急センター				がん診療拠点病院				療法士数			
	救命救急センター	県内シェア	人口100万当り	偏差値	がん診療拠点病院	県内シェア	人口100万当り	偏差値	療法士数	県内シェア	人口10万当り	偏差値
全国	203		1.59	2.43	377		2.94	3.5	87,999		68.7	38
沖縄県	3	1.5%	2.2	52	3	0.8%	2.2	48	1,525	1.7%	109	61
北部	0	0%	0	43	0	0%	0	42	138	9%	136	68
中部	1	33%	2.1	52	1	33%	2.1	48	543	36%	113	62
南部	2	67%	2.8	55	2	67%	2.8	50	786	52%	111	61
宮古	0	0%	0	43	0	0%	0	42	27	2%	51	45
八重山	0	0%	0	43	0	0%	0	42	30	2%	57	47

表 47-5 病院勤務医数、総看護師数、DPC 病院での全身麻酔件数

二次医療圏	病院勤務医数	県内シェア	人口10万当り	偏差値	総看護師数	県内シェア	人口10万当り	偏差値	全身麻酔件数	県内シェア	人口10万当り	偏差値
全国	157,166		123	53	843,730		659	222	1,790,784		1,398	795
沖縄県	2,121	1.3%	152	56	10,920	1.3%	784	56	23,850	1.3%	1,712	54
北部	124	6%	122	50	856	8%	845	58	1,202	5%	1,187	47
中部	496	23%	104	46	3,323	30%	694	52	6,564	28%	1,371	50
南部	1,393	66%	197	64	6,131	56%	867	59	15,040	63%	2,127	59
宮古	56	3%	105	47	346	3%	650	50	674	3%	1,265	48
八重山	52	2%	99	46	264	2%	503	43	370	2%	706	41

図 47-3 病院勤務医数（人口 10 万人当たり）

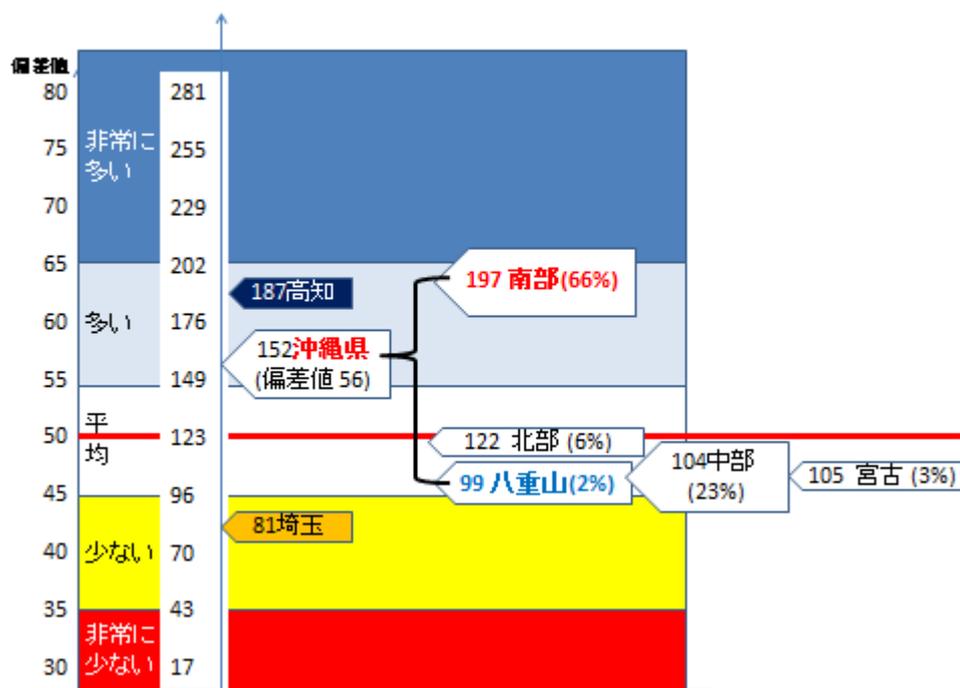


図 47-4 医療圏別基幹病院別全身麻酔手術数

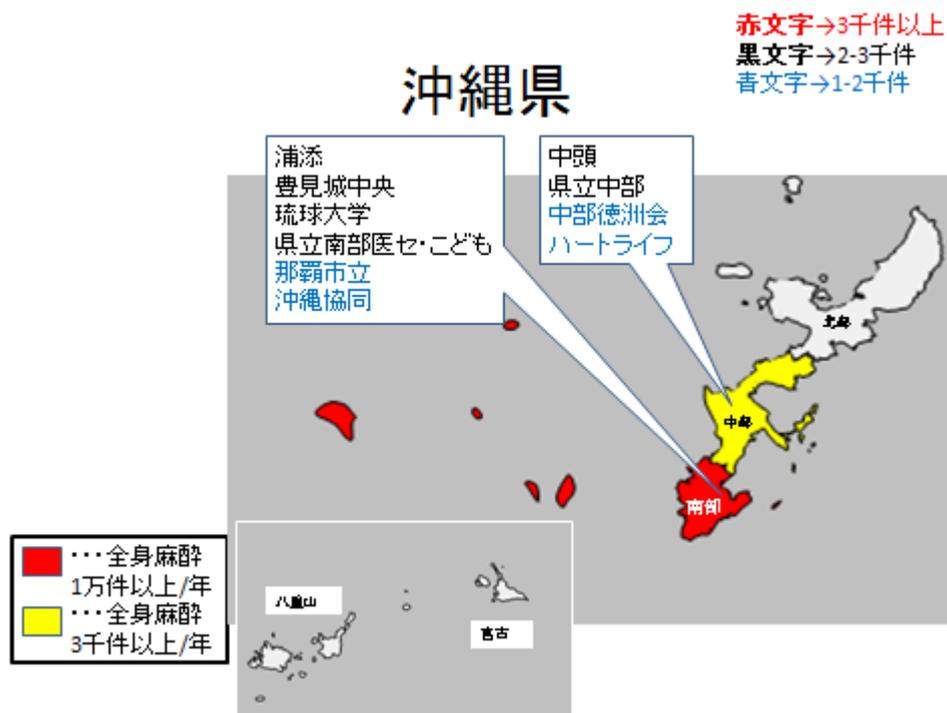
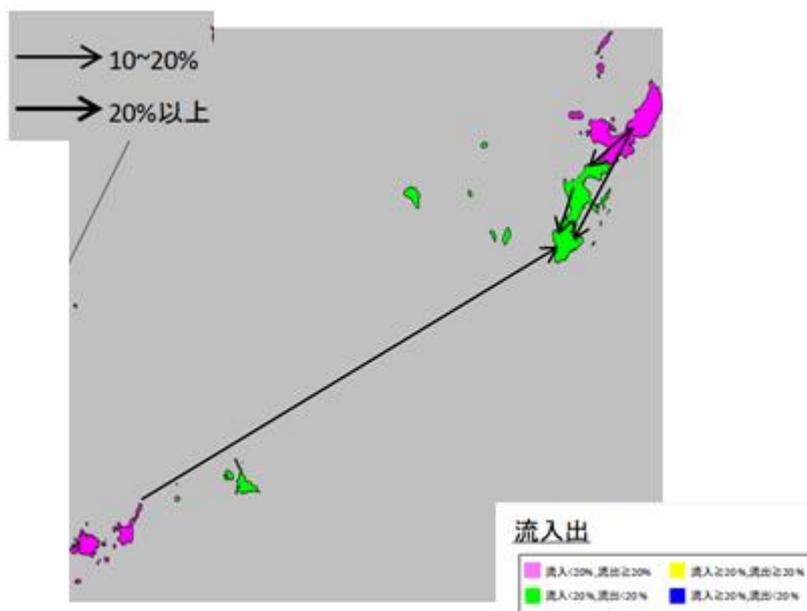


図 47-5 二次医療圏（流入出）



厚生労働省「医療計画の見直しに関する都道府県説明会資料」H. 24. 3
(図 4 7 - 5)

表 47-6 介護保険施設ベッド数と高齢者施設収容数

二次医療圏	介護保険施設 ベッド数	全国 シェア 県内 シェア	75歳 1,000 人当り	偏差値	老人保健 施設収容数 (再掲)	全国 シェア 県内 シェア	75歳 1,000 人当り	偏差値	特別養護 老人ホーム 収容数 (再掲)	全国 シェア 県内 シェア	75歳 1,000 人当り	偏差値
全国	704,693		50	11.6	308,426		22	5.6	396,267		28	10.1
沖縄県	7,797	1.1%	65	63	3,732	1.2%	31	66	4,065	1.0%	34	56
北部	880	11%	73	70	350	9%	29	63	530	13%	44	66
中部	2,615	34%	67	65	1,100	29%	28	61	1,515	37%	39	61
南部	3,572	46%	63	61	1,942	52%	34	72	1,630	40%	29	50
宮古	390	5%	54	53	180	5%	25	55	210	5%	29	51
八重山	340	4%	68	66	160	4%	32	68	180	4%	36	58

表 47-7 高齢者住宅数（高齢者住宅、有料老人ホーム、グループホーム）

二次医療圏	高齢者 住宅数 合計	全国 シェア 県内 シェア	75歳 1,000 人当り	偏差値	有料老人 ホーム計	全国 シェア 県内 シェア	75歳 1,000 人当り	偏差値	グループ ホーム	全国 シェア 県内 シェア	75歳 1,000 人当り	偏差値
全国	640,142		45	18.1	235,778		16.8	10.9	157,413		11.2	6.0
沖縄県	4,613	0.7%	38	46	2,174	0.9%	18.1	51	635	0.4%	5.3	40
北部	322	7%	27	40	170	8%	14.1	48	45	7%	3.7	38
中部	1,307	28%	34	43	616	28%	15.8	49	195	31%	5.0	40
南部	2,614	57%	46	50	1,354	62%	23.7	56	323	51%	5.7	41
宮古	263	6%	36	45	34	2%	4.7	39	45	7%	6.2	42
八重山	107	2%	21	37	0	0%	0.0	35	27	4%	5.4	40

表 47-8 2010年→35年の介護・医療の需要予測

二次医療圏	地域 区分	2010→35 総医療 需要	2010→35 0-64歳 医療需要	65-74歳 医療需要	0-74歳 医療需要 (再計)	75歳以上 医療需要	2010→35 総介護 需要
全国		9%	-26%	-2%	-17%	59%	50%
沖縄県		29%	-11%	35%	1%	93%	83%
北部	3	28%	-7%	29%	3%	67%	62%
中部	1	33%	-5%	40%	7%	97%	87%
南部	1	28%	-14%	32%	-1%	101%	89%
宮古	2	13%	-29%	23%	-13%	50%	46%
八重山	3	31%	-15%	57%	3%	89%	82%

図 47-6 沖縄県 2010 年→35 年介護医療需要の増減予測

